https://www.printo.it/pediatric-rheumatology/JP/intro

慢性非感染性（細菌性）骨髄炎/骨炎（CNO）又は、慢性再発性多発性骨髄炎（CRMO）

版 2016

1.CRMOとはどんな病気ですか？

1.1どのような病気ですか？

慢性再発性多発性骨髄炎（CRMO）は慢性非感染性（細菌性）骨髄炎（CNO）の最重症病型です。小児や思春期の子ども達では、炎症病変は主として長管骨骨幹端に生じますが、病変は骨格のどの部位にも起こる可能性があります。加えて、皮膚、眼、消化管、関節などの他の臓器にも障害が認められる場合があります。

1.2患者の数はどのぐらいですか？

この病気の頻度について詳細な検討はなされていませんが、欧州の患者データベースより、1-5人/10000人の発症頻度が推定されています。発症に性差はありません。

1.3病気の原因は何ですか？

病気の原因は不明ですが、自然免疫系の異常が関連していると推定されています。稀に骨の代謝疾患がCNOと似た病状を呈する事があり、低フォスファターゼ血症、Camurati-Engelman症候群、良性骨増殖症-肥厚性皮膚骨膜症、組織球症が鑑別に挙げられます。

1.4 遺伝しますか？

遺伝性であるという仮説もありますが実証されてはおらず、実際には家族内発症例は稀です。

1.5なぜ私の子どもはこの病気にかかったのでしょうか？防ぐ方法はないのでしょうか？

現時点で病気の原因は不明であり、予防策も知られていません。

1.6他人へ伝染しますか？また感染症ですか？

いいえ、感染性疾患では無く伝染もしません。最近の研究でも、細菌など感染病原体は同定されていません。

1.7どういう症状が出ますか？

患者の主な訴えは骨や関節の痛みであり、若年性特発性関節炎や細菌性骨髄炎が鑑別に挙がります。診察では患者の多くに関節炎を認める事も事実です。局所の骨腫脹と圧痛が良く認められる所見であり、足を引きずるなどの機能障害を認める場合もあります。こういった症状が慢性的、或は反復性に認められます。

1.8 症状はどの子でも同じですか？

症状は患者毎に異なります。加えて、病変のある骨の種類や症状の持続性・重症度は、患者毎に異なるだけでなく、慢性に経過する場合には同じ患者でも変化します。

1.9この病気は小児と成人で違いはありますか？

基本的に小児のCRMOは大人のそれと似ていますが、皮膚病変（乾癬、膿疱性ざ瘡）などの症状は大人に多く認められます。大人ではSAPHO（synovitis, acne, pustulosis, hyperostosis and osteitis）症候群と呼ばれる事が多く、CRMOはSAPHO症候群の小児・思春期版と考えられています。